

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	金田地区 (町島・荒井・岡・今泉・戸野内地区)	令和2年2月22日	令和6年3月19日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	351 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	328 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	53.19 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	15.89 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	- ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	87.15ha
(備考)	

2 対象地区の課題

地区全体では、担い手の数は多いが、高齢化しており、後継者が不足している。また、現状の農地が不整形であるために、農地中間管理事業等の活用が難しく、相対の貸借が多い。

町島・荒井地区のうち、町島橋西側の一部の農地では、耕作しない年もある。

岡・戸野内地区では、圃場整備の動きがある。

今泉地区では、圃場整備について、進んでいない。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

町島・荒井地区では、圃場整備が現在進行中であり、耕作条件の改善に期待がかかる。また、町島橋の西側の農地についても、担い手への集積を図るうえで耕作条件を改善するためにも、圃場整備を希望する動きがある。

岡・戸野内地区では、圃場整備に向けて動いており、今後の農地の集積・集約化に期待がかかる。また、多面的機能支払の活動地区でもあるので、地区の担い手を中心に、引き続き農地の保全に努めていく。

今泉地区では、比較的自作地が多く、近隣地区からの耕作者は少ない。

今後、農地の大区画化・汎用化への気運が高まってきたら、圃場整備の検討を進めていく。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

圃場整備への取組方針

現在、圃場整備が進行中の地区を中心に、農地中間管理事業等を活用し更なる農地の集積・集約化を推進していく。また、未整備の地区については、実現に向けた検討を進めていく。

多面的機能支払への取組方針

岡・戸野内地区では、耕作放棄地の発生防止、地域のコミュニティ形成及び景観の維持につなげていくためにも、当該活動を引き続き継続させていく。